

平成29年度 第1回推進地域連携協議会

～課題解決型授業(主体的・対話的で深い学び)
に関する調査研究プロジェクト～

平成29年7月19日

主体的・対話的で
深い学び
ALPS II

1年次（平成27年度）の研究

成果	<ul style="list-style-type: none">① 学級経営の重要性② アクティブ化シートの作成（4種類）<ul style="list-style-type: none">・「アクティブ化シートA」・「アクティブ化シートB」（①課題意識重視，②対話重視，③活用重視）③ 環境整備の必要性
課題	<p>① アクティブ化シートの活用にあたり，子供にとって学ぶ価値があり，追究する魅力のある単元開発ができたかどうかについて，授業実践を通して，十分に検証することが必要であること。</p>

2年次（平成28年度）の研究

成果

「アクティブ化シートA」の実践化による成果

- ① 育てたい資質・能力を意識することで、単元のねらい、本時の目標・評価がぶれない授業を展開できる。
- ② 単元意識をもちやすくなる。
- ③ 単元を通じた問題解決的な学習展開の充実につながり、毎時間の学習で「何をすべきか」を子どもが明確にもてるようになる。

「アクティブ化シートB」の実践化による成果

- ① 場面ごとに分かれているため、重点化するポイントが分かりやすい。
- ② 日常の授業を改善しやすい。
- ③ グループでの学習と一斉での学習の適切なバランスをとることによって、十分な理解と思考の活性化につなげることができる。
- ④ ICTを効果的に活用することで導入が短時間になり、子ども主体の活動時間や子どもの思考の時間を確保することができる。

2年次（平成28年度）の研究

ALの視点を取り入れた授業を行うための心得の作成

（詳細は平成28年度研究報告書P11）

- ① 指示（説明）をゼロに近づける。
- ② 子供が主体である意識をもつ。
- ③ 子供が「浸る」場面をつくる。
- ④ 教えるタイミングを見極める。
- ⑤ 構造的な板書を心がける。

2年次（平成28年度）の研究

課題

- ① 「アクティブ化シートA」に沿って構成することが難しい教科があった。教科に合わせて構成を変化させたり、改善したりする必要があること。
- ② 「アクティブ化シートB」では、「対話」重視の学習となったときに、ねらいが達成できたのか、「評価」の在り方が今後の課題であること。
- ③ また、子供たちが活発に学習に取り組むようになってきたが、子供一人一人に目を向けたとき、果たして資質・能力が育成されているのか分かりにくいこと。

- ア **育てたい資質・能力を明らかにした上で、単元の目標、本時の目標、及び評価規準を設定し、各教科等の特質や子供の実態に応じた最適な単元構成を工夫すること。**
- イ **「学びの振り返り」を単位時間の中に位置付けるなど、学習指導後の子どもが変容した姿を明確にして「アクティブ化シート」の作成を工夫すること。**
- ウ **子どもの思考をアクティブにするため、「アクティブ化シート」の日常化を進め、シートA及びBの汎用性をより一層高めること。**

文月/6

△鯨の解剖

鯨を切る時、とても固い骨に当た、
てなかなか切れなかつた、たり、あま
り力を入ねると内臓がきずついで
しまひそう、難しか、たてすが、
や、てるうちになれてきて、ハカ
ミの奥の方で切ると良いことが分
かりました。切ると、胃がすこく
大きく目にとまりました。でも、
胃にもようが付いてるのを切つ
みると、魚×2、エビ×3が下下き
ておもしろか、たし、くりしま
した。でも、意外にきれいに残つ
いて不思議だと思、たので、魚の
消化時間も調べてみたいで。

- ア 中央中学校区の5小学校，1中学校による研究環境が整ったことから，これまで研究で開発した「アクティブ化シート」を中学校においても活用できるようにすること。
- イ 小学校において、「主体的・対話的で深い学び」を体験してきた子供たちが，中学校において，どのようなパフォーマンスを見せるのかなど，小中連携教育の視点で研究すること。